

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていた
だきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 宮城教育大学附属小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒980-0011
宮城県仙台市青葉区上杉6-4-1

E-mail : kansou@fu-syou.miyakyo-u.ac.jp

Website : http://fu-syou.miyakyo-u.ac.jp

児童生徒数：男子 384 名 女子 383 名 合計 767 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (科 学)

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

<国際理解について>

4年生では、仙台市に住んでいる外国人という視点から、市在住外国人数上位5か国（中国・韓国・ベトナム・アメリカ・フィリピン）を紹介し、興味を持った国の生活の様子や日本とのつながりについて調査させる活動を行った。調査活動では、図書資料の他にiPadを用いて情報を集めさせ、その後、学級や学年単位で発表会を行った。市在住の外国人という視点から国を限定して調査させたことで、それらの国を身近に感じさせることができるとともに、意欲的に調査させることができた。

<防災について>

総合的な学習の時間において、3年生から6年生まで防災学習に取り組んだ。3年生では、主に校地内を範囲として、地震が発生した場合の避難の仕方を考えたり、校舎内の危険箇所を調査しマップにまとめたりする活動を行った。4年生では、通学路を範囲として、登下校時に地震が発生した場合の避難の仕方を考えたり、通学路の危険箇所や最寄りの避難場所を調査しマニュアルシートにまとめたりする活動を行った。5年生では、仙台市域を範囲として、地震発生後に役立つ施設や避難場所などを調査し、報告し合う活動を行った。6年生では、東日本大震災発生当時を振り返らせ、新たに共助の視点を与え、自分にどんなことができるかを考えさせる活動を行った。

また、防災主任が計画する避難訓練と関連させたことで、低学年から防災への意識をもたせることができた。

当校では、4年前の大震災以前から防災学習、とりわけ都市型災害に対する備えという観点から学びを深めてきた。そして、大震災発生以来、その経験を根拠としてこれまでの学習内容を検証し、より実用的な学習内容へと深化させている。今後も改善を加えながら、子供の防災への意識を高めさせていける学習活動を模索していきたい。

<伝統文化について>

3年生では、地元の祭りである仙台七夕祭りについて興味を持ったことを追究する活動を行った。市の中心街を彩る七夕飾りや七夕の歴史、星座等の観点からテーマを設定して調べた後、同じテーマで調べた子供がグループとなり、2年生を対象とした発表会を行った。また、七夕飾りに詳しい地域の方をゲストティーチャーとして招き、飾りの意味やその作り方について学習することもできた。さらに、実際に飾りを作製して市中心部の商店街に飾る活動を通して、七夕を身近に感じさせることができた。

<そのほか（科学）>

5年生では、MSD株式会社の協力の下、サイエンス・スクールを実施した。子供は病気や製薬の歴史、新薬の製作過程についてクイズ形式で話を聞いた。その中で、普段の生活に関わりのある病気や薬の話に興味深く耳を傾け、新薬開発が人類の発展に大きく寄与したことを理解することができた。

また、スタッフに教わりながらグループで協力して軟膏作りの体験活動に取り組んだ。子供は、温度を調節しながら薬剤の状態変化の様子を見て楽しみ、実際に使用することができる軟膏を作った。製薬の簡単な取組を体験することで、子供は製薬を身近なものと感じるとともに、自分たちの健康と薬の深い結び付きについて考えることができた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）